

三

47歳、4児の子育てをしている父親です。常日頃、子ども達には日々の生活を大切にしつつ、非日常の心が躍るような瞬間も謡歌する。それぞれに幸せを感じつつ、バランスを楽しむように、充実した人生を送ってほしいと考えています。

私は3月14日のホワイトデーに家族と社員へ日頃の感謝の気持ちを込めて、焼き菓子を贈っています。こういった機会を大切にしたいと思いまがとも、日々慌ただしいと失念してしまうもの。毎年、魚町のロータススタイルさんにフォローしてもらい、今年も彼女が作る、おいしい焼き菓子を贈ることができました。チャーミングな彼

女。いつものようにお任せでお願いしたう、今年は「LOVE」の文字をかたどった焼き菓子が入っていて、さすがに社員に手渡す際に照りました。

ホワイトデーを調べてみると、1977年頃に日本で始まったイベントである

連続する

連続するハレと
健全なケ

飯田理一朗

ントは近年増え続け
てきました。気付け
ば日本古来の年中行
事にクリスマスやハ
ロウィンなどを加え
ると、「一年中『ハレ』
の場が続くようにな
り、特別だった「盆
と正月」なんて言葉
も死語になりつつあ
るのかかもしれません。
ん。

言えます。これにより懸念されるのは、「ケ」の喪失です。日本人は古来より非日常の時間と空間を「ハレ」、日常の時間と空間を「ケ」として、生活態度を区分けし営んできました。

曖昧になり、「ハレ」が連續していく。非日常と日常の循環を大切にする日本人の伝統的な価値觀にとつて、これは大きな変化です。

社会の光が強ければ強いほど、その光で生まれた影は、より暗い闇へ落ちてきます。「闇バイト」「立ちゃんば女子」という言葉が日常化しているのも、そのあたりだと思います。

簡易的に「ハレ」が手に入れば、簡単に「ケ」も手に入れようとする。IT社会の恩恵を受けている以上、この流れは簡単には変わらないのかもしれません。

IT社会の発展により、私達は日々大量の情報を手に入れようになりました。

そして、それと呼応するように、その情報処理する能力が求められるようになります。この変化は、地球上で一番情報処理が遅いことから隆盛してきた人類にとって、とても大きな壁に直面しているのかもしれません。

情報処理速度を上げて行動するということは、反射神経に近い状態で行動することです。この分野での長である野生の動物たちは生存競争を勝ち抜くために、環境の変化をいち早く感知し、情報処理し、行動に移してきます。それに対して私達人類は、情報処理を遅くすることで、多くの自由を得てきました。入ってきた情報を保留し続けること

で、考える時間を設け、行動の選択肢の幅を広げてきたわけです。雑念を無くし、様々なことを考える余地を生み出し、創造する。地球上で唯一持ち得ている人類の能力を、人類はどうするのか試されているように感じます。

私は、「ケ」の生活において大切なのは、無心になつて働くことだと感じています。江戸時代の思想家石田梅岩は働くことを「傍（はた）を樂にすること」と定義する付けています。「樂」という言葉には様々な意味があり、全てにおいて私は好きです。無心になつて働くことで、また新たなアイデアや日々の中でも小さな幸せに

気付く」ことができる。ような気がします。諸行無常の世の中ですから、良いことばかりではあります。ケガレた時には、ハレを思う存分楽しんで、またケを邁進していく。健全な「ケ」とは何か、未だにつかめていませんが、健全なケがあってこそ、ハレもまた充実するような気がしています。